

テ崩壞の現象ヲ呈シ、「ミラノ」ヲ始メ「ヴェロナ」、「ウニース」、「バルマ」、「チエノア」、「スベチヤ」  
「ツーリン」等ノ諸大都市ハ悉ク米英側ノ手ハ陥リタル模様ナルガ、五月三日朝「ラヂオ」ハ、北伊  
獨軍司令官「ウィッチングホッフ」大將ガ、「アレキサンダー」ニ對シ無條件降伏ヲナシタル旨放送セ  
リ。結局米英軍ノ捕虜トナリタル伊軍總司令官「グラチアニーニ」ハ（第四一三頁參照）、此レ以上  
ノ抵抗ハ無意味非人道トナルヲ以テ降伏スベシトノ呼掛ケテ伊軍兵士ニ行ヒタリト言ハル。猶  
「チト」軍ハ「フューメ」、「トリエヌト」ニ突入シ且米英軍トノ連絡ヲ達成セル旨報ゼラル。

(五) 捕虜取扱ニ關スル米英對獨共同聲明

二十三日、「スターリン」、「トルーマン」及「チャーチル」ハ、全「聯合」國ノ名ニ於テ、獨逸ノ「聯合」  
軍捕虜取扱ニ關シ、獨軍司令部ニ對シ左記聲明ヲ發シ、且之ヲ放送全戰線ニ互リ傳達セリ。  
米英蘇三國政府ハ、獨逸國內及獨軍占領地ニ於テ「聯合」軍捕虜ヲ管理中ノ總テノ衛戍司令官及  
防衛部隊並ニ戰鬪地域、後方連絡線乃至後方地域等ニ於テ聯合軍捕虜ヲ管理中ノ「グスタボ」勤務  
者及ビ職務階級ノ如何ヲ問ハズ其他一切ノ者ニ對シ、獨逸ト交戦中ノ全「聯合」國ノ名ニ於テ左  
ノ通り嚴重ナル警告ヲ發スルモノナリ。  
前記ノ捕虜管理者ハ、其ノ管理下ニアル全「聯合」軍捕虜及婦女子ノ安全ニ對シ、獨軍最高司令部  
並ニ陸海空軍當局ト同程度ニ個人的責任ヲ有スベク、而シテ戰鬪地域、後方連絡線、收容所、病  
院、監獄又ハ其他ノ場所ニ於テ聯合軍捕虜ヲ虐待シタル者若クハ虐待ヲ許容シタル者ハ、苛借ナ  
ク追究セラレ且處罰セラルベシ。尙右責任ハ如何ナル場合ニ於テモ絕對的ノモノニシテ、之ヲ他  
ノ官憲又ハ個人ニ轉嫁スルヲ得ザルベシ。

四、獨逸國

(一) 「ヒットラー」總統死去

五月二日午前九時五十分「ハンブルク」放送ハ、獨大本營特別發表トシテ、「ヒットラー」總統ハ一日  
午後軍指揮中死シタル旨並ニ「デーニツ」元帥（獨海軍總司令官）ガ、四月三十日、總統後繼者ニ  
任命セラレタル旨放送セルガ、五月二日ノ獨大本營公表ハ、「ヒットラー」總統ノ戰死ヲ確認シ左ノ  
如ク述べ居レリ。

「ヒットラー」總統ハ獨逸ノ首都ノ英雄的防禦者ノ先登ニ於テ戰死セリ。總統ハ獨國民及世界ヲ「ボル  
シエグイズ」ニ依ル破壞ヨリ救ハントノ意志ニ充テテ徹底的ニ戰ヒ抜き、最後ノ瞬間迄眞理ニ忠實  
ナリキガ總統ノ不撓ノ努力ハ永遠ニ獨逸兵士ノ靈燈トシテ輝カン。

(二) 「デーニツ」新總統布告

「デーニツ」元帥ハ、五月二日、總統ニ就任スルト共ニ、獨國民ニ對シ「ヒットラー」總統ノ遺志ヲ繼  
ギテ尙ク逆對蘇戰ヲ繼續スベク、米英ガ獨ノ對蘇戰遂行ヲ妨グル限リ、米英トノ戰ニ續ケラルベシ  
トノ決意ヲ放送セリ。

(三) 外相更迭

二日、「リッペントロップ」外相辭任シ、前大藏大臣「シュヴェリン・フォン・クロジク」伯其ノ後任トナ  
リタリ。

(四) 「ヒムラー」對米英無條件降服申入脱

(1) 二十八日、桑港會議米國代表團副團長上院議員「コナリー」ガ、AP記者ニ對シ、獨ノ降服目録ニ迫レリト洩シタルガ始マリニテ、桑港ヨリAP「ロイター」等ヲ通ジ、「ヒムラー」ガ米英ニ對シ無條件降服ヲ申入レタリトノ報道世界ニ流布セラレ、一部ニハ獨ガ降服セリトノ噂ヲモ生ジテ、多大ノ「センセーション」ヲ捲起シタリ。

英首相官邸ハ、二十八日、「現在ノ如キ事態ニ於テ獨逸ノ降服提議ノ報道傳ヘラルルハ不思議ニアラザルモ、英政府ハ右ニ關シ發表シ得ベキ何等ノ情報ヲ有セズ、然レ共、同盟三天國ニ對スル無條件降服ノミガ受諾セラルベキコト強調セラレザルベカラズ」トノ聲明ヲ發シ、又米大統領「トーマン」ハ、同日夕刻、臨時ニ記者會見ヲ行ヒ、「軍事顧問「リー」大將ヲシテ巴里聯合軍最高司令部ニ照合セシメタル處、獨逸降服ノ報道ハ何等ノ根據ナシトノ報告アリタリ」ト述ベタルガ、右兩聲明ハ何レモ獨逸降服ノ噂ヲ否定シツツモ、降服申入ガアリタルヤ否ヤニ付テハ明言ヲ避ケ居レリ。猶「アインゼンハウアー」ハ、二十八日、未ダ獨軍ヨリ何等降服ノ申入レニ接シ居ラザル旨聲明セリ。

(2) 瑞典外務省ハ、二十八日、本件ニ關シ「ヒムラー」内相兼國內軍總司令官ガ、數日前一個人ヲ通ジ「ストックホルム」英米公使館ニ對英米和平ニ付申入レタル旨發表セルガ、「ストックホルム」ノ新聞ハ、「ベルナドット」伯(國王ノ甥ニシテ瑞典赤十字社副總裁)ガ、二回ニ互リ「ヒムラー」ト會見シ、二十四日、「ストックホルム」ニ歸來シテ、口頭ヲ以テ英米公使館ニ和平申入ヲ傳達セルモノナリト報道シ、右ハ、二十九日、瑞典外務省ニ依リ確認セラレタル模様ナリ。猶「ベルナドット」伯ハ其ノ後「抹」ニ赴キテ再ビ「ヒムラー」ト會見シ、新提案ヲ携ヘテ、五月一日、「ストックホルム」ニ歸來セリト述ベラレ居ル處、他方「ベルナドット」伯ハ新聞記者ニ對シ「ヒムラー」トノ會見說ヲ否定セリト傳ヘラル。

猶、「ヒムラー」ハ、降服申入ニ際シ、「ヒトラー」ハ危篤ニシテ今後四十八時間生存セザルベシト述ベタリトノ報道アリ(「ロイター」)。又中立國筋ニ於テハ、英米側ガ全然相手ニセザルヲ知ル「ヒトラー」ハ、英雄的死ヲ選ビ、事實上ノ權力者トシテ英米側ニ於テモ認め居ル「ヒムラー」ガ右申入ヲナシタルニアラズヤトノ觀測アル模様ナリ。

(3) 英米ノ之ニ對スル態度トシテハ、前記英政府聲明ノ如ク、無條件降伏ハ英米蘇ニ對シテ同時ニナサレザルベカラズトノ態度ヲ持シ、英米ノミニ對スル「ヒムラー」ノ申入ヲ拒否セル旨傳ヘラレ、或ハ五月一日ヲ期限トシテ「ヒムラー」ニ對シ蘇聯ニ對シテモ同時ニ降伏スベキ旨要求セリトノ報道モアリ。又「ヒムラー」ノ申入ハ、「ヒトラー」及其ノ忠實ナル部下ノ承認ナク、獨軍首腦部ノ承認ノ下ニ行ハレタルモノニシテ、米英對蘇聯ノ離間ヲ狙フ最後ノ試ミナリトノ見方モアル模様ナリ。

蘇側ハ、二十八日夜、「タス」ヲシテ、前記英政府聲明ヲ確認セシメタルガ、蘇側ノ態度ニ關シテハ、二十九日、桑港發「ロイター」ハ、「スターリン」ノ側近ヨリ聞込ミタル所トシテ、「スターリン」ハ「ヒムラー」ハ降伏申入ヲナスベキ十分ノ權限ヲ有セズ、又獨ノ武力崩壞後ニアラザレバ降服ノ提案ニ應ジ得ズトナシ居レリト傳ヘ、又他ノ報道ニ依レバ蘇側ハ本件ヲ以テ聯合國離間ヲ計ル獨ノ謀略ナリトシテ警戒シ居ル趣傳ヘラル。

否定聲明ニ依リテ容易ニ鎮靜セザリシ由報セラレ、其ノ後モ米外務省ノ歐洲問題専門家ガ緊急會議ヲ開キタリトカ、英政府ガ全閣僚及上下兩院議員ニ對シ當分ノ間倫敦ニ足留ヲ要請セリトカノ報道頻リニ傳ヘラレタルガ、「トルーマン」ハ、三十日、「公式ニ發表シ得ル時機トナラバ歐洲戰終結ニ關シ白聖館ハ報告ヲナスベシ」ト聲明シ、又「チャーチル」ハ、五月一日、議會ニ於テ、「英政府ガ恐ラク今週中特別重大ナル報告ヲ受取リタル時ハ議事ヲ中斷シ簡單ナル報告ヲナスベシ」ト述べ、更ニ英國内務省ハ、一日夜、地方官憲ニ對シ所謂「V」デ（歐洲戰終結ノ日）祝典ニ關スル指令ヲ發シタル由ニテ戰勝氣分漲リ居ル模様ナリ。

(五) 「ミュンヘン」暴動物發説

二十八日、「バイエルン」自由運動ト稱スル一獨逸放送局ハ、同運動ガ「ミュンヘン」ヨリ「ナチス」黨員ヲ放逐シ、「ライヒス」ダット「ハルター」「エッパ」大將ノ下ニ同市ヲ政權ヲ獲得セル旨ヲ放逐シ、一般獨逸民衆及軍ニ對シ無意味ナル抵抗停止ヲ勸告スル「エッパ」ノ檄ト稱スルモノヲ放逐セルガ、同日午前、「ガウライター」「グライスマラー」ハ、南獨逸放送局ヲ通ジ、暴徒ノ首魁「ゲルネグロス」大尉ハ、「ミュンヘン」放送局ヲ利用シテ虚報ヲ流布シ、就中獨逸民ノ信用ヲ擄センガ爲、獨逸人ノ名ヲ擧ゲ居ルモ、事實無根ニシテ、吾人ハ容易ニ右暴動ヲ鎮壓シ、全南獨逸政權ハ依然範圍及「ヒットラー」總統ニ忠實ナル人士ノ掌中ニ存リト述べタル趣ナリ。

(六) 奧太利臨時政府ノ組織

二十九日、莫斯科放逐ハ、「カール・レンナー」ヲ主班トスル奧太利臨時政府ノ組織ヲ報ジタリ。「レンナー」ハ、一八七〇年生レ、社會民主黨ノ前黨首、換太利共和國最初ノ首相ニシテ、婦和會議首席全在地ハ維持ト報ゼラル。臨時政府組織ニ際シ、蘇聯ハ事前ニ米英ニ何等協議セザリシ模様ニテ（第三三六九頁參照）、三十日、米國務次官「グルー」ハ米國政府ハ奧太利假政府ヲ承認セズ、右ニ關シ目下蘇聯ト交渉中ナル旨聲明シ、英外務省モ非公式ニ同様ノ聲明ヲ行ヒタリ。

五、伊 太 利

「ムソリニ」等ノ處刑

「ムソリニ」及「ファシスト」領袖ハ、抗獨派「カドルナ」將軍ノ無條件降伏ノ勸告ヲ却ケタル後、二十五日頃、密カニ「コモ」ニ赴キ瑞西入國ヲ試ミタルガ拒絶セラレ、「グラチアーニ」將軍ハ全ク希望ヲ失ヒテ抗獨派ニ自首セリ。「ムソリニ」ハ「バダリアーニ」黨書記長ノ手兵七千ヲ以テ最後ノ戰闘ヲ行ハントセルモ、兵ノ士氣沮喪シ居リ、未ダ戰ハズルニ潰滅シ、「ムソリニ」ハ、「ファシスト」將校隊、獨將校帽ヲ着用シ、「ヴァルテリーナ」方面ニ向ケ撤退中ノ「トラック」二十輛程ヨリ成ル獨機械化部隊ニ投ジタルガ、忽チ抗獨派ノ知ル所トナリ、二十七日午後、部隊ガ「コモ」湖畔「ドンゴ」ニ差掛ルヤ襲撃ヲ受ケ、獨軍ハ戦ハズシテ降伏シ、「ムソリニ」ハ一旦附近ノ山中ニ拉致セラレタル後、「コモ」ニ於テ抗獨派ノ裁判ニ附セラレ、人民ノ名ニ於テ處刑セラレタリ。尙屍體ハ「コモ」ノ廣場ニ曝サレタルガ、更ニ「ミラノ」ニ運バレ、同地ニ於テモ曝物トナリタル趣ナリ。